

「無茶お」まぢい意の者さ」アお怖さけさるさ夢寐の由りま
憑「無茶さするさるさ」

憑「おと云のさるさ」

憑「おの娘は、おまへに」

憑「十月十三日」

憑「おの娘は、おまへに」

憑「おの娘は、おまへに」

憑「おの娘は、おまへに」

憑「おの娘は、おまへに」

憑「おの娘は、おまへに」

憑「おの娘は、おまへに」

憑「おの娘は、おまへに」

憑「おの娘は、おまへに」

憑「おの娘は、おまへに」

財団法人協調會大阪支所

オ

松「それが都合が悪ければ折合ひが悪いかから止めて貰ふとせう」

井「折合ひが悪くて止めさすならなぜ下の者ばかり止めさすか」

松「組合の人には聞かぬ」

井「弱い労働者は贈物を爲さぬと折合ひが悪いとて首にするとは殘酷でせう」

松「受取るものも贈るものも悪い」

井「兩方悪ければハダハダハナレバナレの事」でもよいてないか」

松「それは違ふ折れ合ひの悪いと云ふ理由が全々違ふ。おれの云ふ通りによと云ふのを爲ないのだ」

井「あなたの云ふ通りには誰でも働させぬ」

松「それだから始終書いて出すのだ」

青「兎に角く持つて行かぬから折れ合ひが悪いのです」

松「そんな事はない共助箱にも出て来るがどうも共助箱にも名が多